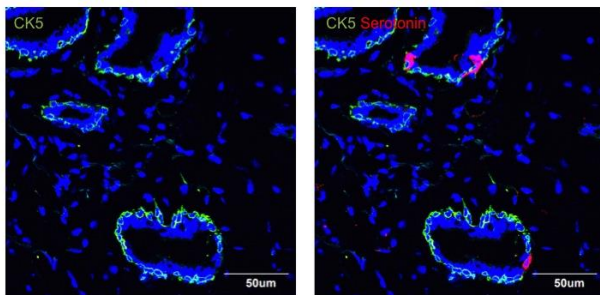


## マウス前立腺における神経内分泌細胞の分布と形態に関する検討

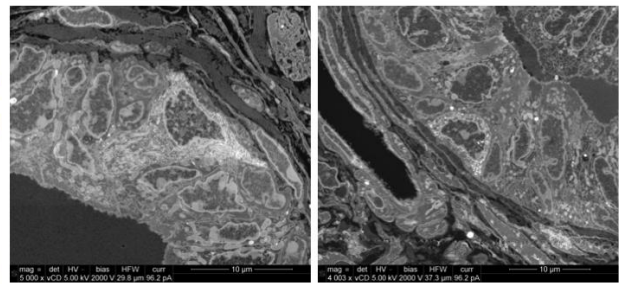
[目的] 前立腺の神経内分泌細胞は、前立腺肥大症の初期に発現が亢進し前立腺癌の予後に関与することが以前より知られていた。しかし、依然として謎が多い細胞としても知られている。今回の研究では、マウスの正常前立腺組織を用いてその分布や形態を詳細に検討する。  
 [方法] 4%パラホルムアルデヒドを用いて還流固定された12週齢マウスより正常前立腺を周囲組織と共に一塊として摘出する。その摘出臓器を同方向にて凍結保存し、全割する。その全割組織を特定の神経内分泌マーカーや因子を用いて免疫染色を行い、その分布や形態を検討した。因に尿道近傍の導管を領域A、以降の導管を領域B、腺房部分を領域Cとした。  
 [結果] 神経内分泌細胞はほとんどが領域Aに存在していた。細胞の形態は主に基底細胞に沿って腺腔内に突出しないタイプ(closed type)の細胞がほとんどであった。様々な神経内分泌マーカーと因子に関しては、現在検討中である。

### セロトニンとサイトケラチン5



実はセロトニンとサイトケラチン5は同時に染まらない！神経内分泌細胞は基底細胞??

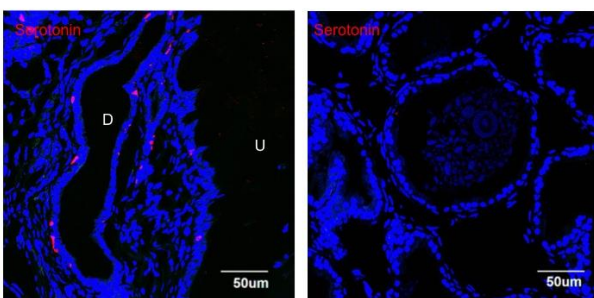
### 電子顕微鏡的観察



open type

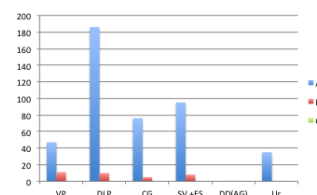
closed type

### セロトニンを用いた分布



尿道近傍の導管にセロトニン陽性細胞を確認

<領域別細胞数(分布) セロトニン陽性細胞>



<Open typeの存在比率>

(open/total)	A	B	C
VP	14.9%(7/47)	0%	-
DLP	14.0%(26/186)	0%	-
CG	20.5%(16/78)	20%(1/5)	-
SV+ES	15.1%(14/93)	12.5%(1/8)	-
DD(AG)	-	-	-
Ur	17.4%(4/23)	-	-